

ATTAC 京都 2004 年度方針(案)

文責：事務局長 山沖直樹

〔活動面〕

- ・ KSF を積極的に位置づけ、その成功のために全力を尽くす。
- ・ KSF 終了後には、その成果を確実に継続させていく。

12月の「京都社会フォーラム(KSF)」までは、ATTAC のすべての活動をそのための準備として位置づけ、その成功のために全力と尽くさなければならないでしょう。

「社会フォーラム」の成功は、ATTAC 京都の理念からしても非常に大きな意義を持っていますし、また一方で、呼びかけた団体としての責任を果たし、他団体との信頼を築くことは、これからの活動に対して大きなプラスとなるでしょう。その成功のためには、いまの ATTAC の全力をそこに投入するしかありません。これからは、一つ一つの活動をすべて KSF に向けていく必要があります。

また同時に、KSF はそれ自身がゴールではなく、むしろスタートなのだと考えることも必要になるでしょう。KSF を成功させるために協力してくれたさまざまな団体・個人とのつながりを整理し、強化していく努力をしなければ、何のための KSF だったのかわからなくなります。そこで、共同企画の開催以外にも、様々な社会運動団体との間で情報交換をこれまで以上に行い、深いつながりを形成するなど、来年度の後半は、活動の主眼を KSF の成果を継続・定着させていくことにおくべきです。

- ・ 世界社会フォーラムや WTO 閣僚会議など世界的な課題について、地域での浸透をはかり、社会運動間での協同の取り組みをすすめる。
- ・ ATTAC 首都圏グループや関西グループとの、イベント、キャンペーンにおける協力をすすめ、部会レベルの取り組みにおいても有機的な連携をはかる。

〔組織面〕

- ・ ニュースレター、会報など広報活動の充実
- ・ 例会 運営委員会の月1回のサイクルを円滑にまわしていく
- ・ 事務局体制の確立 責任の明確化、人数拡大、仕事・情報の共有

先ほど反省点のところでも述べたが、学生サークル的なあり方から組織的な体制の確立が来年度の課題です。

ひとつには、交流学习の場である例会と、組織運営・事務作業の場である運営委員会を月一回ずつ定例化すること。これによって、事務の効率化、適格化を図るとともに、会員同士の交流を促進し、本当の意味でのネットワーク化を進めることができるでしょう。具体的には、毎月第一金曜日を運営委員会、第三金曜日を例会とするのはどうでしょうか。

また、事務局体制にしても、できるだけ組織化、システム化することが急務です。具体的には、ルーティンワークのマニュアル化、責任の所在の明確化、人員拡大、事務局 ML の活用などが考えられますが、実際的には、事務局業務細則の中で検討されるべきでしょう。

以上、活動面、組織面両方において、前年度の反省を活かし、ATTAC 京都のより積極的な展開を果たしていきたいと思います。